

# すももの郷通信Ⅱ

落合小  
学校通信  
No. 4  
2023,5,25  
発行 宮崎

## 5年生 林間学校終わる 5月17日(水)～18日(木)

「友だちと協力して ルールを守り楽しい林間学校にしよう」のテーマのもと、5年生が県立八ヶ岳少年自然の家での林間学校へ出かけてきました。お天気にも恵まれ、5年生の子どもたちは、八ヶ岳の大自然の中で、自然散策や美し森絵図ハイク、ナイトハイク、冒険ハイク、宿泊体験など予定していた活動を仲間と協力して楽しむことができました。とくに美し森絵図ハイクでは、コース図を頼りに、道に迷いそうになりながらも友達と声をかけ合い、助け合い励まし合いながら、ゴールを目指すことができました。この林間学校で心に残る楽しい経験をつむことができました。この経験が子どもたちの絆を一層深め、高学年としてステップアップしていくことにつながることでしょう。引率の小野先生、教頭先生、澤登先生、佐藤先生、ボランティアで協力してくださった深澤前校長先生、飯窪先生が、子どもたちのサポートをしっかりとしてくれました。



ふれあいセンター



美し森絵図ハイク



ナイトハイク



冒険ハイク

協力すること、やり抜くこと、お互いに気持ちよく過ごすことを学びました。

## プール清掃 5月22日(月)

6月5日のプール開きに向けて、プール清掃を行いました。安全に事故がなく使えるように、4年生以上が分担して掃除をしました。4年生はプールサイドや更衣室、トイレなどをきれいにしました。5年生と6年生は、大プールをきれいにしました。1年ぶりのプールです。壁面のしつこい汚れを落としたり、プールサイドを磨き上げたり、4～6年生は高学年としての責任を果たしていました。おかげで、プール、プールサイド、トイレ、シャワー、更衣室などのすべてがきれいになりました。これで楽しく、安全なプールを開設することができます。



5月24日(水)、6年生が家庭科の時間に調理実習で野菜炒めに挑戦しました。おすそ分けで、職員室でも試食させていただきました。とても、美味しかったので、紹介してみたくになりました。保護者の皆さんにも召し上がっていただきたいところですが、写真だけで申し訳ありません。

6年生のみなさん、ありがとう！！

【6年生作 野菜炒め】  
(チンジャオロース風)

## 小林栄養士・成島栄養士来校 給食指導 5月23日(火)

6月は「食育月間」です。食育とは「生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基盤となるものであり、様々な経験を通して『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な生活を実現することができる人間を育てること」とされています。(食育基本法2006年6月制定)

給食センターから、小林栄養士と成島栄養士が来校し、「ごはんつぶを残さず食べよう」「ごはんとおかずを交互に食べよう」「食器を正しくおこう」などお話ししてくださいました。いつもおいしくいただいている給食を作ってくれたり、献立を考えてくれたりしている方との触れ合いは意義あることです。



## 3年生 校外学習～地域の様子や暮らしを知る～ 5月15日(月)

文化財課の齋藤さんを講師として、落合地区の地形や文化財について学びました。初めに教室で、なぜ、「落合」という地名なのかなど、地形について齋藤さんからお話を聞きました。その後、地域に出て実際に見たり聞いたりしてきました。「百聞は一見に如かず」です。ICTが発展・普及した今、ややもするとコンピューターやタブレットなどの画面上で体験したような気分になってしまうこともありますが、自分の身体を移動させて臨む「リアル」な体験や、相手の呼吸までもが分かるような対面でのやり取りは、子どもたちが健やかに成長していくためには欠かせません。

「本物」に触れること、大切にしていきたいと思えます。



### プラスの3K

やりたくない仕事を評して「きつい、汚くない、危険」の頭文字から3Kといわれることがありますが、プラスになる3Kの話です。

臨済宗の僧侶であった松原泰道(1907~2009)さんは、101歳の時にある新聞のインタビューに「どんなことも、『あたりまえ』とみていたら**感動**は得られません。・・・朝、起きると『ああ、今日も生きさせてもらっている』と感動しますね。そして、何人かの人の役に立つことができるのではないかと**希望**がわいてきます。ただし、その希望をどう実現するか、というためには**工夫**が必要です。」と語っていました。そして「**感動、希望、工夫、私はこれを『プラスの3K』**と呼びます」「真剣に生きたいと思うならなら、このような『心の杖言葉』、つまり自分の心の支えになる言葉をもつことをおすすめしたい」とも語っています。

松原さんは、人生には『プラスの3K(感動・希望・工夫)』が必要であると言っているのです。この『プラスの3K』は、日常生活を何の目的もなく過ごすのではなく、常に前向きに自分から積極的にかかわっていくことが大切であることを伝えています。子どもたちは、これからの長い人生で辛い壁にぶつかることもあるでしょう。そのたびに崩れてばかりはいられませんね。それを乗り越え、自分を奮い立たせ、前向きに生きていくための支えとして『心の杖言葉』をもつことは必要なことでしょう。